

道南美術の歴史、
ここにあり！

道南美術のクロニクル

来し方行く末

小玉貞良《江楚屏風》(部分) 1751-64(宝暦年間)年、当館蔵

From the Past into the Future: Chronicles of Southern Hokkaido Art

2022. **12月24日**[土] — 2023. **3月5日**[日]

休館日:月曜日(1/9は除く)、1/10(火)、年末年始(12/29-1/3) 開館時間:9:30-17:00(ただし入場は16:30まで)

観覧料:一般510(410)円 高大生300(200)円

●65歳以上および中学生以下は無料。●()内は前売り、リピーター割引、どうなんアートリンク、および10名以上の団体料金。

●このほか親子割引など、お得な料金もあります。

主催:北海道立函館美術館 共催:北海道新聞函館支社 後援:函館市、函館市教育委員会、NHK函館放送局、FMいるか
協力:北海道旅客鉄道株式会社函館支社、五稜郭タワー株式会社、函館美術館ボランティアいちいの会

※展覧会およびイベントの予定は、やむを得ず変更となることがあります。その場合は、当館ホームページおよびTwitter、Facebookにて発表いたします。

※当館は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大防止対策をとっています。お客様にもご協力をお願いいたします。

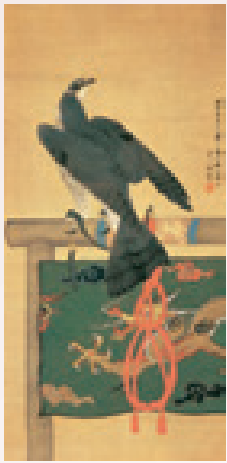


北海道立函館美術館

HAKODATE MUSEUM OF ART, HOKKAIDO

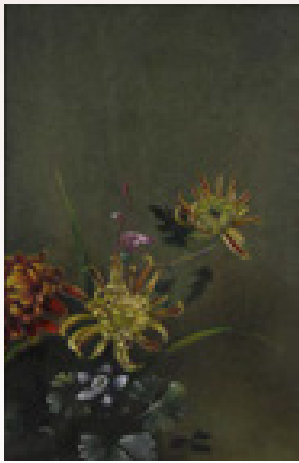
〒040-0001 函館市五稜郭町 37-6 TEL. 0138-56-6311

<https://artmuseum.pref.hokkaido.lg.jp/hbj/>



函美の波響 そろいぶみ!

1



異才の写真師・横山松三郎

2



松前が産んだ謎の絵師・小玉貞良

3

北海道のなかでも古くから本州と交流があった道南地方では、江戸期より多くの美術作品が制作されてきました。

最北の城下町・松前は、江戸中期に小玉貞良(生没年不詳)、後期には蠣崎波響(1764-1826)など異色の日本画家を輩出。1855(安政2)年に開港した箱館(函館)では、西洋からもたらされた絵画技法や写真術を学んだ横山松三郎(1838-84)が足跡をのこしました。明治期にはいと北條玉洞(1850-1923)が絵画専門学校を設立し、道南の美術教育に尽力。1921(大正10)年には、玉洞の教えをうけ、のちに東京で活躍する田辺三重松(1897-1971)などが参加した道内最古の美術団体・赤光社が結成されました。道南の主要な公募団体に成長した同社からは、このほか岩船修三(1908-89)や橋本三郎(1913-89)など道内画壇を牽引するさまざまな画家があらわれています。

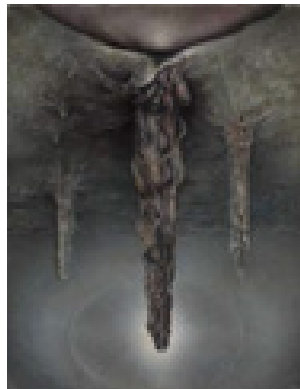
戦後は、再興した赤光社や北海道美術協会(道展)に加え、全道美術協会(全道展)、行動美術協会(行動展)などあらたな美術団体がつぎつぎに結成されました。道南の作家たちのなかには地元だけでなく全道・全国規模で活動するものも増え、現在までその活動はさらなるひろがりを見せています。

本展ではこうした流れをふまえ、当館所蔵作品および資料を中心とした54作家83点により、道南美術の魅力をたっぷりとお紹介します。この地域がはぐくんできた美術の精華をおたのしみください。



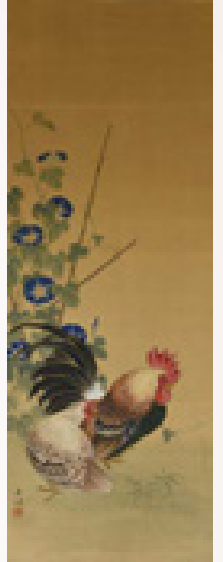
激動の時代、田辺三重松が戦地で見たものは…

4



道南近代美術の父・北條玉洞とは?

5



戦後の多様な展開にも注目!

8



夭折の画家 深井克美

6



道南が誇る金工作家 折原久左エ門

7

1. 蠣崎波響《名鷹図》1815(文化12)年
2. 横山松三郎《菊》制作年不詳
3. 小玉貞良《江差屏風》1751-64(宝暦年間)年
4. 田辺三重松《北方の港(北千鳥)》1943(昭和18)年
5. 北條玉洞《鶏朝顔図》制作年不詳
6. 深井克美《タキオン》1974(昭和49)年
7. 折原久左エ門《連作-記録-》1984(昭和59)年、個人蔵
8. 三箇三郎《ウィングラスの陽》2007(平成19)年
9. 長谷川清二郎《静物》1987(昭和62)年

1、3、6、8、9:当館蔵 2、4、5:函館市蔵(当館寄託)

●関連事業

◎連続美術セミナー

道南美術の研究者による特別イベント。近世から現代にいたる道南地域の美術史を全4回でたどります!

①特別講演会「近世道南美術の魅力」

日時:1月28日(土) 11:00より(約60分)
講師:五十嵐聡美氏(北海道立近代美術館学芸部長)

②「近代道南美術の黎明 一赤光社を中心に」

日時:2月4日(土) 14:00より(約60分)
講師:田村允英(当館学芸員)

③「戦時下の道南画壇 一危機の時代と美術一」

日時:2月18日(土) 14:00より(約60分)
講師:田村允英(当館学芸員)

④特別講演会「戦後道南美術の展開」

日時:3月4日(土) 14:00より(約60分)
講師:大下智一氏(北海道立近代美術館リサーチ推進課長)

見どころ解説

本展の見どころをわかりやすくお話しします。

日時:①12月24日(土)11:00より ②1月21日(土)14:00より (各約30分)
講師:当館学芸員

いずれも会場/当館講堂(無料) 定員/各25名(当日開始1時間前から整理券配布)

このほか「美術映画会」、「ハコビ・アトリエ」なども予定しています。くわしくは当館ホームページをご覧ください。

同時開催

ミュージアム・コレクション冬~春 12/24(土) - 2023/3/31(金)

「新収蔵品展」(常設展示室) 「鷗亭と牧水」(鷗亭記念室)

観覧料 一般260(210)円、高大生150(110)円 ()内は10名以上の団体料金
*中学生以下、65歳以上及び高等学校の教育活動による観覧は無料。*土曜日は、高校生無料。

●交通案内

市電:「五稜郭公園前」下車徒歩約7分
バス:「五稜郭公園入口」「芸術ホール前」「五稜郭病院前」
「五稜郭」下車徒歩3~10分
タクシー:JR函館駅より約10分/函館空港より約20分
駐車場:函館市芸術ホール駐車場をお使いいただけます。
※当館ご利用の方は駐車料金が2時間まで無料になります。

